

平成28年度

第6回海老名市総合教育会議

海老名市総合教育会議 会議録
(平成29年3月 第六回)

- 1 日 付 平成29年3月18日(土)
- 2 場 所 国分寺台文化センター 集会室
- 3 出席者 市長 内野 優 教育長 伊藤 文康
教育委員 平井 照江 教育委員 岡部 二九雄
教育委員 海野 恵子 教育委員 松樹 俊弘
- 4 事務局 教育部長 岡田 尚子 教育部次長 金指 太一郎
教育総務課長 吉川 浩 教育総務課総務係長 佐藤 哲也
教育総務課主査 志村 政憲 教育総務課主事 神福 壽子
- 5 開会時刻 午前10時00分
- 6 協議事項
(1) 児童生徒及び教職員の生活時間について
(2) 保護者の経済的負担のあり方について
(3) その他
(大谷中学校区での身近な話題などについて)
- 7 閉会時刻 午前11時14分

○**教育部長** ただいまより、平成28年度第6回海老名市総合教育会議を開会いたします。
私は司会の教育部長、岡田と申します。よろしくお願いいたします。

進行につきましては、本日お配りしております次第に沿って進めさせていただきます。
それでは初めに、市長と教育長からご挨拶を申し上げます。

まず初めに内野市長、よろしくお願いいたします。

○**内野市長** おはようございます。教育委員の皆さん、ありがとうございます。そして傍聴の方もありがとうございます。

今回、28年度第6回のこの会議を迎えます。これで最後になりまして、この間、1つは部活動のいわゆる先生方の負担とか、子どもたちの部活動に対する考え方、2点目は保護者の負担軽減について話し合いをしてきました。そういった面では、部活動の方向性や、あるいは保護者の負担軽減をどう今後考えていくか、それをある程度ここでまとめ上げていきたいと思っています。どうか皆さんのご協力をお願いしたいと、挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○**教育部長** ありがとうございます。

それでは引き続きまして、伊藤教育長、よろしくお願いいたします。

○**伊藤教育長** おはようございます。本当に多くの方に来ていただいてありがとうございます。内野市長はタウンミーティングという形でさまざまところでずっと継続しているのですけれども、教育委員会としては総合教育会議を、市長の意向もあったのですけれども、各地域で開くということで、中学校区の本日は6回目になります。ここに来たら、中学生——もう高校生なのか、公園でギターを取り出して歌の練習をしたり、子どもたちが遊んだりして、本当にうららかないい環境なのだと私は思っているところでございます。そういう中でまずは来ていただいたことに感謝しまして、我々、市長と教育委員の話し合いが総合教育会議という場なのですけれども、それを聞いていただいて、多分市長さんのほうからまた皆さんにご意見をということですので、それについて意見、感想等を述べていただくとありがたいと思っています。

それでは、よろしくお願いいたします。

○**教育部長** ありがとうございます。

それでは、次第の3でございます。総合教育会議と教育大綱について、事務局、教育総務課長吉川からご説明申し上げます。

○**教育総務課長** 皆様おはようございます。それでは私のほうから、次第3の総合教育会

議と大綱についてご説明をさせていただきたいと思います。お手元に資料がございますが、それを見ながら聞いていただければと思います。

まず資料の1ページでございます。総合教育会議でございますけれども、こちらは一昨年前の平成27年4月に施行されました地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正に伴い、新たに設置されたものでございます。総合教育会議とは、市長と教育委員会が相互の連携を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政を推進するために設けられた協議調整の場でございます。よってこちらの会議につきましては市長が招集した上で、原則公開の場で議論、協議をしております。

具体的な協議調整事項については3点規定されております。1つ目が、教育行政の大綱の策定、2つ目が、教育の条件整備など重点的に講ずべき重要な施策でございます。3つ目としましては、児童生徒等の生命・身体の保護等の緊急の場合に講ずべき措置でございます。最近ではいじめなどが議題になろうかと思っております。

また開催回数ですが、先ほど市長からもお話が出ましたが、今年度は6つの中学校区に出向きまして6回の実施をしております。本日が最後でございます。

続いて、資料下段の2. 教育大綱でございます。教育大綱とは、市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的施策についての目標や施策の根本となる方針でございます。こちらは市長が定めるものであり、教育に関する基本的な方針を定めたものでございます。

策定につきましては、この総合教育会議において市長と教育委員が協議調整した上で策定をしております。海老名市ではこれを一昨年、平成27年4月上旬に開催いたしました総合教育会議で行いましたので、恐らく、全国で一番最初に大綱を策定したのではないかと思います。

次に、具体的に海老名の大綱とはどんなものかというものを簡単に説明申し上げます。本日お配りした資料の後ろのほうにA4判のカラーの資料を添付してございますので、こちらをご覧くださいながら聞いていただければと思います。

まず目標でございます。「しあわせをはぐくむ教育」のまち海老名が大綱の目標であります。

具体的な取り組みとしては、1つ目が、子どもと大人がともに成長する社会、それから2つ目が、子どもたちの今と将来のしあわせのための教育、3つ目が、家庭・学校・地域のためのよりよい環境づくりをしていこうというものでございます。

これらをお互いに関連し合いながら取り組んでいくことで目標を達成していこうという

ことを規定してございます。

具体的な教育施策としましては、3つの柱を設定させていただきました。カラーの資料でいきますと下段のところでございます。まず1つ目が中央、「えびなっ子」しあわせプランの推進、2つ目が左手の、子どもと大人がともに学ぶ生涯学習の充実、3つ目が安全安心な環境と新たな学校施設への取組を行っていかうというものでございます。そして、これらは学校だけではなく、家庭、地域、行政の力を結集して行っていかうというものでございます。

ざっぱくではございますが、説明は以上でございます。

○教育部長 それでは引き続き、協議に入りたいと思います。案件につきましては、既にお配りしております次第のとおり3件となっております。よろしく願いいたします。

それから、先ほども教育長からお話がありましたけれども、会議の途中、市長から保護者を中心とする傍聴者の皆様方からご感想ですとかご意見をいただきたいというようなお話がある場合もございます。その際、申しわけありません、時間も限られておりますので、簡潔にお願いしたいと思います。

それでは、ここからの協議の進行につきましては、内野市長に議長をお願いいたします。

○内野市長 それでは、協議事項(1)児童生徒及び教職員の生活時間についてを議題といたします。初めに事務局から説明をお願いいたします。

○教育支援課支援係長 よろしく願いします。教育支援課麻生と申します。座ったままで失礼させていただきます。

では資料を見ていただきたいのですが、まず、児童・生徒及び教職員の生活時間についてというところです。こちらは大学の調査研究をもとにした資料でございます。上のほうの①が平日の先生方の仕事時間、下の②が1週間の先生方の仕事時間の内訳についての詳細となっております。日本の先生方の多忙ぶりについては新聞報道等でも連日取り上げられておりますけれども、こういった数字で見てもその辺は明らかかなと思います。

下の1週間の仕事の内容なのですけれども、小学校、中学校で特徴的な部分といたしましては、小学校の先生方はクラス担任制でございますので、やはり授業に係る仕事時間が多くなっている。中学校に関しては、教科担任制ではありますが、授業以外の子どもへの指導ということで、生徒指導ですとか部活動指導に係る時間が長くなっているということ

が明らかになっているかと思えます。

では、次の資料をごらんください。こちらにつきましては今年度の全国学力・学習状況調査の中の質問紙調査というものをとしたデータでございます。この調査は全国の小学校6年生及び中学校3年生を対象に行っているものの海老名市の結果となっております。

今スライドで出ておりますけれども、生活習慣についての幾つかの項目をピックアップしております。上のほうは寝る時間及び起きる時間に関して、下がスマートフォン、携帯等の使用時間についての資料となっております。

生活習慣に関しては本市でも元気なえびなっ子プランの「早寝・早起き・朝ごはん！テレビは止めて外遊び！」などのキャッチフレーズで生活習慣の呼びかけ等を行っている中で、全国比、小中学生ともに同等もしくはよい結果が出ていると思えます。

スマートフォン、携帯、ネットの利用については、全国に比べますと、特に中学生で使用時間が非常に長くなっているという結果が出ておりますけれども、実は経年変化で過去3年間の推移で見えますと、中学生においても改善傾向が見られていますので、引き続き家庭と連携して啓発活動等を行っていきたいと思っております。

続いての資料になります。学習に関してでございます。学習に関しても小学生、中学生ともに全国比、結果はよい結果と捉えております。ただ、中学生のほうはかなりいい数字は出ておりますけれども、この調査は学習塾（家庭教師等含む）という調査ですので、そういったところの力をかりている部分もあると思っておりますので、引き続きこちらも家庭と連携して家庭学習等の取り組みに努めていきたいと思っております。

続いての資料になります。こちらは学校生活に関しての幾つかの項目をピックアップしております。「学校に行くのは楽しいと思えますか」「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していただけますか」「自分には、よいところがあると思えますか」という項目をピックアップしております。全般を通して学校生活において学習だけではなく、行事その他諸活動を通してお友だちと認め合い、それぞれの長所を生かして活躍して満足感を得ている中で自己肯定感や自尊感情が高まっている様子が見えてきます。引き続き、えびなっ子1人1人が充実した学校生活を送れるように取り組んでまいりたいと思っております。

○内野市長 それでは次に、中学校の部活動についてのアンケートの結果について事務局から説明をお願いします。

○教育支援課指導主事 よろしく申し上げます。教育支援課の加藤といたします。

今年度、海老名市では中学校部活動実態調査及び生徒部活動アンケート調査を実施いたしました。目的としましては、生徒及び教職員の部活動の実態を把握するため、調査対象はごらんのとおりになっております。実施期間としましては9月27日から10月6日の期間の間に実施させていただきました。

次の資料をお願いします。全体的なアンケートの結果のまとめとしましては、教員の82%が何らかの形で部活の顧問をしています。そして日々の活動の中で負担に感じていることとしまして、「負担である」「少し負担である」「あまり負担ではない」という3項目を設けましてアンケートを実施しました。全体的な結果としましては、60%が日々の活動、休日の活動、自分の専門以外の部活動を指導することに負担を感じているということ、そして50%以上が保護者の部活動への理解・対応、そして生徒指導上の問題等に不安を感じているということがわかりました。

生徒のアンケートの結果のまとめとしましては、運動部の90%以上が週6日以上活動していきまして、毎日活動している部活が全体の62%になっています。また、部活動以外の59%が週1回以上活動しているということがわかりました。

日々の部活動に対して生徒たちがどのように感じているかというところで、大きく4点でございます。部活動は楽しい、運動部が97%、運動部以外が89%。そして部活動の活動時間が現状のままか、それ以上にもっと活動したいと思っている生徒は運動部が65%、運動部以外が68%でございます。全体の80%以上の生徒が部活動は自分の生活に必要なである、そして部活動は自分の将来に役に立つと思っているということが調査からわかりました。

具体的な顧問の年齢構成及び部活動の顧問の有無についてでございます。20代、30代の教員が全体の55%、そして50代、60代で顧問を持っている方が何と37%、全体でいることがわかりました。現在顧問をしているのが82%、残りの18%は部活動の設置がない、部活の引率顧問として携わっている教員も含まれております。具体的に申し上げますと、水泳の引率の顧問であるとか、柔道等の引率の顧問という形がかかわっている教員でございます。

これは教員の日々の活動及び休日の活動で負担だと思っているパーセンテージでございます。約6割の教員が日々の活動が負担である、そして休日の活動が負担であると感じているということがわかりました。

保護者の部活動への理解・対応、生徒指導上の問題、そして自分の専門外である部活動を指導することについての割合となっております。特に自分の専門外の部活動を指導することに関しては、6割の教員が日々負担を感じているということがわかりました。

こちらは生徒の部活動の実態でございます。現在、部活に所属している子どもたちが全体の87%、そして13%は部活には所属していないけれども、地域のクラブだったりシニア等で活動している生徒も多くいます。

部活動の種類としましては、運動部が69%、運動部以外が31%です。運動部に関しては12種目、運動部以外につきましては18種類、市内に種類がございます。

次は生徒の1週間の活動の割合です。先ほどもご説明を差し上げましたが、運動部に関しては週6日以上活動している者が約8割を超えております。そして楽しいと思っている生徒が80%。「少し思う」17%を含めて、97%が楽しいと思っているということ。運動部以外の子どもたちは週5日以上活動している生徒の割合がかなり多くなっております。一番多いのは実は1週間のうち3日活動しているのが27%、約3割でございます。約8割の子たちが楽しいと思っているということがわかります。

次、お願いします。それぞれ運動部の子たちと運動部以外の子たちで、今度は活動の内容とか活動時間に関してでございます。運動部の傾向としましては、日々の活動内容や練習内容がハードで厳しいけれども、もっともっと活動したいと思っている生徒が多いこと、そして運動部以外の生徒は日々の活動はそんなに大変ではないのだけれども、もっと活動時間が長いといいなと思っている生徒がかなりの割合にいるということがわかります。非常に安心しました。

そして活動日数に関しても、約半分の子たちが多いと思っている、半分の子たちがあまり思わないと思っている傾向があること、そして「部活動は自分の生活の中に必要だと思う」という項目と、次の「部活動は自分の将来に役に立つと思う」という項目について、部活動は自分の生活の中には必要なものであることと、日々の生活の中でさまざまなことを感じながら、技術の向上のみならず、人として成長できる場だと思っている生徒が約8割いるということが今回の調査からわかったところでございます。

○内野市長 今、説明がありました。教育委員の皆さんはこれで6回目でありますから、途中、秋ごろから少し海老名の実態が入った調査が出ましたけれども、わかっていると思いますが、委員の方は何か質問はよろしいですか。最後のまとめの段階で。本日学校の校長先生、手を挙げてください。——3名いらっしゃいます。私のほうからお聞きしたいの

ですけれども、生活時間の調査と学力結果は、海老名市は今、教育長の方針のもと公表しています。これを踏まえて、学校では学力の結果とか生活時間の調査を見て、公表されてからどういう方向で具体的にやるようになっていきますか。それぞれ考え方をお願いしたい。

○大谷中学校長 学力のほうについては、各学校としても公表していますが、評価の観点としては、各設問の狙いに即して、例えばひとりよがりにならないように、自校の平均点等が全国の平均と比べて高いのか低いのか、その差の有意のところを着目して、弱点といい点という見方をしながら、弱点に関しては具体的な日々の授業の中でどういうふうに向上させるかということを確認にして、職員と共有をして、これから進めていこうという形になっています。

○内野市長 そうすると、結果が出るのが秋ごろですね。3学期から実際に始まるということですか。2学期から始まるのですか。

○大谷中学校長 分析のほうは、本校においては主に私が中心となって先生方のほうに提示しながらということですが。公表の時期は12月だったと思いますが、それより前にデータはできていますので、市教委のほうに原稿を出す前に全職員では共有していますから、2学期の後半ぐらいからというのが実態ではあります。

○内野市長 極端な話、そこでやっけていろいろ結果が出て、生徒の学力とか認識のもと、勉強の問題もありますけれども、基本的にその学力の調査によって教え方とか試験の関係とか、多少は2学期の後半から3学期にかけては変わるということで判断していいのか。

○大谷中学校長 そうですね。今回で言うと国語と数学だけですので、具体的には国語、数学は取り入れの部分が具体で変わっていると思いますけれども、他の教科に関しても応用的に考えてほしいということですから、具体で試験をやっていない科目については各教科で練り直していく時間は必要なのだと思います。

○内野市長 中学校は特に教科でこうできるからいいけれども、小学校はどうなのですか。小学校は先生1人で全部教えますよね。そうですね。そうすると、その部分ではそういう形で中学校は教科ごとに出ているから、特に国語と数学の部分は出るから中心的にわかるのだけれども、小学校はどういうふうな形ですか。どちらでも構いません。

○杉久保小学校長 杉久保小学校です。小学校では主にその結果を受けて教職員の指導の改善について検討しております。特に校内研究会で授業のあり方について年間を通して検討している中で、うちは算数を中心にやっているのですけれども、同じ教室の空間の中で

お互いに意見を交換し合えるような環境にあるかとか、そこで自分が思った疑問をみんなの前で発表ができるかとか、それに対してお互いに共有できるような、人権的な環境が保障されているかとか、そういうところをベースにした授業づくりができていくかということをもとに、学力の向上に向けて関連づけて研究をしているという実態があります。

○内野市長 市教のほうに聞きたいのだけれども、今はホームページで公表しているのか。一般的には何で公表しているのか。

○教育支援課指導係長 ホームページで公開をしておりますし、冊子としても作成はしております。

○内野市長 それは保護者全員にですか。

○教育支援課指導係長 はい、そのとおりです。

○伊藤教育長 各学校のものを。

○内野市長 本日、保護者の方はいらっしゃいますか。ちょっと手を挙げていただきたい。その保護者の皆様、学力テストとか生活時間のあれを一生懸命見た人は手を挙げてください。余り関心がないですか。ご意見があればどうぞ。

○市民 特に意見はありませんけれども、こんな結果だったのかなという……。

○内野市長 そういう目安ね。

○市民 はい、目安として。

○内野市長 私のころなどは全くそういうのはなかったのではわからないのですが、やっぱり保護者の方は一応見ることは見ているわけですよね。そうですね。わかりました。

では、この件については、傍聴しておられる方、何か感じていることはございますか。よかったらどうぞ。ここは意見の対立ではないので、ああ、こうなのかなとか、こういうふうな形でこういうふうにやってほしいとかあれば出してください。できるできないではなくて、こう思うこととかあったら出していただければなど。

○市民 感想でもいいですか。

○内野市長 感想で結構です。

○市民 今いろいろと出たのですが、学力の関係とか部活の関係なのですが、やはり学力を上げるとかいろいろな面で大事なものは意欲だと思うのですよ。やる気とか関心を持つ。そういう意味で先生が子どもたちにやる気になるような言葉がけをしたり、ふだんにつき合いがあったら、子どもたちはどれだけ伸びるだろうと思うのですね。本日見せ

てもらって、中学校の先生たちは本当に大変だなと思っているんですけども、子どもたちと教員が触れ合う時間はどのくらい確保しているのかなど。これから子どもがやっぱり中心なのですね。子どもがよくならなければいけないのだから、子どもと教員が触れ合う時間をたくさん確保できるような、そんな学校運営というか、また施策が持てたらいいなと。そのためには教員を増やせということになるのかもしれませんが、とにかく子どもと教員が触れ合う時間をふやしていくことが、よい子どもをつくるポイントかなと思います。

○内野市長 さすが元校長先生で、時間がたつといいことを言うなと思いますが、そういうことですから。ほかにはありますか。

○市民 先生方と子どもたちの共有するものは、もちろん私たちもそうなのですが、ともに好奇心を持つということが大切だと思います。それによって何か知りたいという疑問を解決しようとか、あるいは理解する力というのですか、それを共有する。わからないことはわからない、では何なんだ、調べようみたいな、そういう自分の力で学んでいける環境をつくるということが大切だと思います。先生もわからないことがいっぱいあると思うのですが、それを生徒から学ぶみたいな、ともに共有するということですか、それで好奇心を育むということが大切だと思います。私は説明が下手なのですが。

○内野市長 言われていることはわかります。

○市民 中学生の保護者なのでですけども、学力面のことのお話で、ちょっと知ってお子さんが学校の勉強についていけなくて、3学期から学校に行けなくなってしまった子がいるのですよね。それで、ほかの子たちは中学1年生に入って、小学校と学力の進み方が違うので塾に行くのですけれども、その子はお母さんが忙しくて見てあげられない状況があるんじゃないかなと思うので、どこかその受け皿が学校にあったらいいなと考えていたのです。そのお母さんと相談しながらそういうことも考えていきたいなとは思っていたのですけれども、そういう面で学校でそういう勉強に困っている子に触れ合うとか、そういう機会というのはできないものかと思っているのですが。

○内野市長 今、関心、意欲の問題、それから学ぶ力、今は学力がついていけないので不登校になっているという実態、そういったものを含めて、教育長、見解がありましたらどうぞ。

○伊藤教育長 伊藤でございます。まず誤解があつてはいけないのですけれども、例えば触れ合う時間をという話がありましたが、学校というのは授業の時間が一番触れ合うし、

部活の時間も、結構その時間は充実しているのだと思うんですけども、多分それ以外の時間で触れ合う時間ということをおっしゃられていると思うので、そういう面では忙しくなっているなどというのは正しいことだと思います。でも、触れ合う時間は十分にあって、その授業の中でどう触れ合うかというのはすごく勝負で、先ほどの教師の問いかけとか好奇心とか、そういうのがそこの中で育まれる。そういう意味で言うと、我々が受けたような一方的な先生が黒板に書いて、はい、これを覚えてと。覚えた人の覚えた量で勝ちとか負けで評価されるような、今そういう授業ではないので、ぜひ小中学校、特に小学校の校内研究という場面で保護者の方々に授業の実態を見ていただいて、先生たちは本当に必死になって研究して、どんな問いかけをしたら子どもが食いついてくるかをみんなで授業の後もやりとりして、この発問よりも違う発問でいったほうがよかったのではないか、あの授業の資料は違ったほうが絶対子どもは食いつくよとかというのを日々研究していますので、そういう中で今進んでいるところでございます。

それから中学校の学力の面で、それは保護者の方々にも言ってほしいのですけれども、教員たちは部活が忙しいだろうが何だろうが、保護者の方から相談があった場合には、今まで私が中学校にいたときもそうですけれども、何より子どもたちにそういうのがあったら疑問に答えて、時間を割いて、それを授業の後でも呼んでやるようなことを教員たちはやりますので、制度として海老名市教育委員会がそれを設けることも1つなのですけれども、今の実態でそれをいろいろ私は検討したのですけれども、その子どもをよく知っている人がやるのが一番よくて、知らない人が制度でただやるよりも、そういうふうな意味で言うと、ぜひ学校にそれは相談していただくとありがたいかなと思っているところでございます。

中学校は、先ほどの結果で、すごく自分で目標を決めて失敗を恐れないでやるとか、自分にはよいところがあるということで、全国と比べて、小学校は低いのですけれども、中学校は高いのですよ。それはどういうことかということ、中学校は結構合唱祭とか体育祭とかいろいろな行事の中で先生たちが本当に子どもたちの中に入って、一緒になってやるのですよ。そういう中でそういう触れ合いもあるのかなと私は思う。その結果がここには子どもたちの、諦めずに頑張ろうとか、そういう気持ちにあらわれているのかなということで、私は自分の管轄で学校を擁護しているという意味ではなくて、学校は学校で学力テストの結果を受けて、さまざまな生活習慣も含めて、学習も取り組んでおりますので、ぜひ地域の皆さんとか保護者の皆さんにもそういう場面をどんどん見ていただくのが一番理解

につながるかなと思っているところがございます。これからも連携というか、地域とのつながり、また保護者とのつながりを深めてまいりたいと思います。

○内野市長 今の関係は把握されているのですよね。知っていますよね。私などは、具体的な問題ですから学校でやってほしいなと思いますけれども。成績がついていけなくても、昔はみんな学校へ来ていましたからね。何しろ学校へ行かないと怒られてしまうから学校へ行く。私はこのアンケートを見ていてびっくりしたのが、学校が好きですかという問いに、好きと書いている人たちが8割。私ははっきり言って学校は大嫌いだから。先ほど好奇心とか学びの力とか、はっきり言って、そんなことを考えたこともない。学校へ行くのが嫌だったという問題もあるのですけれども、学校へ行かないと怒られてしまうから学校へ行っていた。だけど、成績がいい悪いではなくて、みんな学校へ行っていて、部活動をやっているやつは部活動をやっていて、何かあれば来るのだよね。何にもないと来なくなってしまうのですよ。来なくなってしまうと不登校になって、また問題がある。その問題だと思うのですよね。

私も孫がいるので、孫は部活動のために学校へ行っているような感じはしますからね。そういった面ではケース・バイ・ケースなので、何かありましたら、ちゃんと市教と話し合っただけでやっていくということは絶対必要なのでよろしくお願ひしたい。

よろしいでしょうか。

○市民 1つ、先ほどから出ていると思うのですが、今の学力と部活の関係です。部活をやっていない方が13%ぐらいいるというデータがここにあると思うのですが、この方たちは基本的には学習塾へ行ったり、あるいはほかのところの何か部活にかわるようなところに行っただけでやっておられるということだと思うのです。具体的に今、部活をやっている80%以上の方と、学力と部活の関係で実際に今の公立高校に入学するための入学試験の学力が、こういった中でとかく学習塾にやっっている方が結構多いと思うのですけれども、果たして通常の勉強の仕方と言ったのではおかしいのですけれども、バランスをとった形で進めているということであれば、通常の公立高校だったら入学試験は通るのだというぐらいの学力はどうなのでしょう。大体バランスがとれて進められていると。同時に、学習塾に行っている方と行かない方の学力の差というのはどの程度あるのかというのは、具体的に何かデータのものがございませうか。

○大谷中学校長 正直、具体的なデータはありませんけれども、本校に関して言うと、校外のクラブとかそういったものに通っているのが比較的他の中学校区よりも多いのだろう

と思います。名簿等で誰がどの部においてなどという一覧もありますけれども、そこが真っ白というお子さんは大抵はクラブに通っていらっしゃる。何もやっていないという方は本当にごくごくわずかだなという印象を持っています。

部活動とか塾と学力との因果関係という部分は、特にクロス調査等に行っていないので具体的なお答えはできませんけれども、ただ、部活動をやっている時間帯は勉強はできないわけですが、その中で時間を有効に使おうとか、目標に向かって粘り強く頑張ろうとか、そういうふうな勉強の学力の土台のところは養われると思いますので、放課後にやる同じ1時間の使い方というところでは、部活をやっている子がそういうふうな面で力をつけていくというのはあるだろうなどは期待をしています。具体的なデータがなくて申しわけございません。

○内野市長 今言われたのは、塾に行かないと公立の高校に行けないのか。公立の高校に行くために塾がフォローしているのではないかという意見だと思うのだけれども、そういう意見ですよ。それについてはどうですか。

○大谷中学校長 公立に関しては、今の入試問題はいろいろ考えて論文形式で書くような問題もあるので、昔のような記憶と再生というような形の問題ではないですけれども、そうはいつでも公立高校に関しては中学校の授業の学習だけで、塾に行かなくても十分対応できる内容だろうと思います。

○内野市長 2017年から大学の関係の入試も変わってきているということを知っていますし、少子化を迎えれば当然子どもたちは少なくなりますから、大学入試はこれから変化をもっとしていくと思うのですよ。大学もそうですけれども、高校もそうだと思うのです。私学がいっぱいできていて、高校、大学の私学があった場合、今、中学校までつくっている私学が多くなっています。それぞれ転入をしないといけないから、少子化を迎えてしまっているから今までの成績主義でできるのか、あるいは特徴的なものか。それは大学受験がこれから本当に変わっていくと思います。今年の入試でも多少変わったというのを聞いています。来年はもっと変わります。高校も変わると思います。これは文科省が今後、少子化を迎えて。

そういう中で海老名では小中一貫教育というのを今推進しているのですよね。これはいろいろ目標があるのですけれども、それも1つだと思うのですよね。

もっと少子化を迎えると、小中高一貫校ができる可能性があります。もう既に地方へ行く中高一貫校はできているのですよ。九州のほうとか東北ではできています。1つだけ

問題があるそうです。いい高校に行きたいから、その中学校へ転入がどんどん入る。ところが、地元の方がその高校へ行けなくなってしまうらしい。そういう問題があるらしい。だから、ここら辺の問題というのは今後どうするかですね。

海老名中学校と海老名高校が一緒になったら、海老名中学校に来る人はいっぱいいますよ。海老名は3校高校がありますから、これは将来ずっと廃校にならないのではないかとされています。問題は、高校も少なくなりますし、大学も維持しないといけない。そういった場では、内容的には試験とかそういった部分では相当変わってくる要素があると思いますから、そこをどうやって今の中学校を市教育委員会が考えていくかという問題だと私は思いますけれども、それについては、教育内容を教育長以下、教育委員会でやっていますから、これにつきましてはよろしいですね。

それでは、まとめでよろしく申し上げます。

○教育支援課指導主事 児童・生徒及び教職員の生活時間について及び部活動等のこれまでのまとめになります。全体的なまとめとしては、教職員、生徒ともに生活にゆとりがないこと、そして先ほど申し上げたとおり、専門外の部活動顧問に大きな負担がかかっていること、生徒は部活動に多忙感を感じて、多忙感はあるのだけれども負担感はあまり感じていないという現状があること、そして部活動のあり方について、保護者の意見としては多過ぎるのではないかという意見と、もっと熱心にもっと活発にやってほしいという意見に分かれていることが挙げられます。

今後、29年度以降の方向性としましては、部活動検討委員会を立ち上げて、市教委だけではなくて、医師の方だったり保護者の代表の方、そして現場の先生方も含めて、海老名市としてどのような方向性を考えていくかということは今後検討していく予定でございます。

○内野市長 教育委員の皆さん、今回一応、部活動を中心としたまとめ方ですけれども、こういった方向で29年度進めようという市の教育委員会の考え方をお示ししましたけれども、これは教育委員さんも聞かれていると思うのですが、何かございますか。

○伊藤教育長 ぜひ部活動について意見を。

○松樹委員 29年度の方向性で今、仮称ですけれども、部活動検討委員会がやっと始まるということで、私もずっとこれは早くつくったほうが良いといつも思っていました。多々問題が出てきていますので、それを全てクリアできるかといったら、そうではないのだと思うのですが、子どもたちが本当に自主的にやっている部活動ですので、気持ちよ

く、いろいろなことの学びがあるというのが私は部活動だと思っていますので、教育的効果というのは全員が全員認めるところなのだと思います。子どもたちも先生も保護者も負担がなく、気持ちよくできるのがいいかなと思います。いやあ大変だったなど、専門外の先生は、今はインターネットとかいろいろ情報は多い時代ですので、子どもたちのほうがテクニックがあって先生がわかりませんというような状況もあると思います。早くこれを設置して、近々に何か決めるのではなくて、よりじっくり話し合っただけで決めていければいいかなと思っていますので、よろしくお願いします。

○岡部委員 この検討委員会に期待をしております。メンバーにぜひ若い人を、生徒が入れるのかどうかかわからないのですけれども、特に部活は中学校の問題もありますので、中学校の生徒だったら可能なのではないかな。もし難しければ卒業間もない子なども入れてほしいと思います。

それから、その上の段に保護者の意見が「多すぎる」と「もっと熱心に」という2つに分かれていると言われましたので、ぜひ両方の意見が言えるようなメンバー構成にしてもらえればなと思っています。いずれにしても部活が悲しい活動であってはいけないわけなので、いい方向に行くように持っていければと思います。

○海野委員 今、部活動は、中学生は立派に成績を残している学校もたくさんございます。そういうことで部活動には先生方もすごく力を入れていただいているのではないかなということがうかがえます。そこで、ご家庭での部活動への理解と申しますか、保護者の協力がもう少し得られれば先生方の負担も少し軽くなるのではないかなと思いますので、先生方はこんなに時間を割いて指導されているということを保護者の方、また周りの方に理解されていければいいかなということがつくづく感じられますので、今後その面を改善していただければと思います。

○平井委員 海老名市は多分一歩進んでこの検討に入ったのではないかなと思うのですね。つい先日の新聞も、本当に数日前だと思うのですが、文科省が方向を出してきましたので、そのうち各市町村に多分その指針等が来るかなと思うのですが、関係機関等も相当今回見直しをしようと言っていますので、これに関しては随分変わってくるのではないかなと思います。市としても外部指導者の登用も教育委員会として考えていかなければいけないということも出されていますので、ちょうどいい機会なのかなと思います。

そのかわり、出されたからにはきちんとした海老名市として確立したものをつくっていかねばいけないと思いますので、焦ることなく、検討委員会が立ち上げられるという

ことなので、そこでじっくりと話をさせていただいて、子どもたちのこれから、今出されているように学力と部活動の両立ができるような方向で海老名市としてはつくり上げていけたらいいなと感じています。

○内野市長 これは要綱設置ですよ。

○伊藤教育長 中のほうでは要綱です。

○内野市長 今、岡部委員の言われた中学生の意見とか、それは部会をつくればいいのですよ。検討委員会をつくったら、その中に中学生等の意見を聞ける部会をつくればいい。保護者の意見の絶対多数は保護者の代表だけれども、意見を集約する場合は保護者の部会をつくるのです。そういった設置要綱にしておけば、部会ができて子どもたちの意見を聞いて吸い上げてやれるようになる。いいですか。そういった部分でクリアできますから。

それでは、29年度はそういった形でつくるといってございます。今、平井委員が言われた国の方針が出されますから、私も思いますが、あまり国に準拠をしないように。いいところは準拠してもいいと思います。海老名市、市教としての考え方を出示してください。

そこにおいて1つ市長としてお話ししておきたいことは、人的配置、施設的な面、そういったものは全てお金がかかります。お金は限られた予算でありますから、未曾有には出せません。そういった面は財政部門としっかりと打ち合わせをしていただいて、1年間かけて来年の3月にまとめ上げて予算化はできませんので、できれば今年の12月までの間に即必要な予算については中間報告でまとめ上げていただいて、財政とヒアリングをやっていただきたい。よろしいでしょうか。大体学校の先生方は1年でやっていますけれども、予算編成は今年の10月から始まってしまいますから、そうすると大体12月が山場です。いらっしゃる方はわかるのですけれども、学校の現場にいる人はわからない。だから、その部分では予算編成というのはそうなっていますから、当然今年の秋過ぎまでに来年度の影響あるものはやる。あるいはモデルでやってみたいものについては、9月補正か12月の補正ですね。早ければ9月補正だったら中間のモデル地域のものはできる。それをやって結果が出るのは3月しかありませんから、そこで予算がまたできなくなってしまうから意外と難しい点なのです。そこら辺をよく予算上考えていただいて、予算を出すか出さないかが判断されます。

1つだけ市教委で気をつけてほしいのは、国は何を言ってもこういう方向でします、交付金でこういう制度を国は出します、よって市町村は頑張ってくださいと。その交付金

は、海老名市は来る交付金と来ない交付金がありますから。交付税で算入された場合は海老名市はゼロです。保育園がそうなのです。公立保育園は海老名市は4分の3。普通は4分の3が国の補助金でやり、4分の1で運営します。ところが、海老名市は不交付団体なので、国からの補助金4分の3は公立保育園は来ません。だから座間とか綾瀬とは金の出し方が違うのですね。そういった部分では、国というのはそうやって予算上出ますから、そういった場合、財政からよく聞きながら、使える予算を使いながらやるのですけれども、来ないものは来ませんから注意していただきたいというのが私からの意見です。

それではまとめを上げましたので、即、部活動検討委員会を設置していただいて、じっくり時間をかけるものはかけていただいて、早急にできるものは早急に、中間答申でもいいけれども、上げていただきたい。これの会長は誰なのか？

○伊藤教育長 私は設置者なので事務局側のあれですけれども。

○内野市長 では後で互選で決めるんだね。

○伊藤教育長 もちろん決めます。

○内野市長 では、よろしくをお願いします。

皆さん、よろしいでしょうか。

他にないようですので、協議事項の1については、以上といたします。

○内野市長 次に、協議事項(2)の保護者負担軽減についてお願いしたいと思います。事務局から説明をお願いします。

○教育総務課長 保護者負担の軽減のあり方についてご説明させていただきます。お手元の資料11ページの上段をご覧ください。着座にて失礼いたします。

先ほど海老名市教育大綱の中でご説明いたしました、その中で安全安心な環境と新たな学校施設への取組みの中の2点目、下線を引いてございますけれども、義務教育に係る公費負担のあり方の検討がございます。具体的には小学校1年生、それから中学校1年生の教材費の無料化などを実施しまして、保護者の負担軽減を図ることですとか、義務教育に係る保護者負担の軽減と学校徴収金についての検討を進めるということなどでございます。

そういった中で、海老名市として現在どのようなことを行っているかというものをまとめたのが下段の資料でございます。(2)としまして海老名市が実施している事業、そして一番下に(3)として来年度、29年度に新規・拡充する予定の主な事業を挙げております。

説明は以上になります。

○内野市長 今回いろいろな関係でこの事業を進めてまいりました。奨学金の援助、あるいは野外教育活動の公費負担、部活動の充実、学童保育もやっております。今年度からは小中学生安全安心サポート（子どもの保険）について教育長、教育委員会の皆さんが保険をやってくれという形で要望がありましたが、24時間体制はできませんでした。しかしながら、学校の範囲から逸脱した学校管理下の部分については保険適用になります。これについては家を出てから学校へ行って、学校から家に帰るまでの間、その間については全部保険が適用されるという形で出しております。そういった面では第三者被害の関係もクリアできるだろう。

それからスクールライフサポート（就学援助）についても拡充しております。前渡金も早く実施するという形でやっておりますので、そういった面では改善されてきています。何でも無料が一番いいわけでありますけれども、そこまでいきません。議会でも全部出ました。給食費を無料にしるとかいう話は出ますけれども、できることはやっていきたいと思っています。

何かこれについてありますか。いいですか。

ここに中学生の保護者の方は…、いらっしゃいましたね。手を挙げてください。中学生の保護者。やっぱり制服は最初、10万円ぐらいかかりませんでしたか。

○市民 かかります。

○内野市長 かかりましたよね。これは孫のもののメモなのだけれども、ポロシャツが1枚4,428円なのです。上着の冬服が4万円です。それから夏服のスカートが1万4,000円なのね。ポロシャツとか下に着るのが全部4,500円以上。もっとおもしろいのがジャージの上下で、上下合わせると1万円です。ユニクロで購入したほうが安いじゃないかなと思うんですけども、何でこんなにかかるかなのです。ネームを入れるだけでかかるかというのと、それも1つあると思うのですけれども、海老名市が夏に半袖でポロシャツをつくるんですよ。そこにえび〜にゃのマークを入れるのですね。職員にそれを買ってもらって、そのポロシャツで仕事をやってもいいですよという、マークを入れても1,500円なのです。マークを入れてもですよ。

その部分で、どうやっても値段の単価の問題があるのですよ。これは今後、教材費もそうなのですけれども、アルバムもそうなんです。アルバムも学校で差があるのです。それを調べていただいて、今回は来年度の総合教育会議にそのデータを19校、全部出してほ

しい。19校全部出したら、保護者に全部公表してしまうでしょう。そうするとみんな出てくるよ。何でうちの小学校はこんなに高いの、あそこは安いのと出てきます。問題は、制服もあります。そういった部分では幾ら公費負担で安くしても、制服とか教材費で——教材費は今、小学校1年生と中学校1年生は無料になっています。あとの7年間はそれぞれ出していますから、その部分で十分に検討する余地があるので、ここはいろいろ業者の関係がありますから、そういうのを含めて、ある程度調査をした段階で改善できることは改善をしないといけないと私は思います。この保護者負担軽減については新年度に入ったら調査をしてもらって、次回、その調査に基づいて少し議論をするということはどうでしょうか。

○伊藤教育長 それについてはもう市教委は全て調べてあります。それを実際のところ、今、学校ごとの格差があります。それは実を言うと海老名の問題だけではなくて、インターネットとかで調べてみると、ほかの市でもそのことが出されて、新聞報道も出されているような状況です。要するに保護者の経済的負担という中で、義務教育は無償だけれども、子どもを学校に通わせるために小学校1年生はランドセルを用意したりなんかしてやっていますので、お金がかなりかかりますので、中学は特にかかるといことなのですけれども、来年度、これは校長先生方とも話し合って、PTAの会長さんたちにもそれは投げてあって話し合っています。そういう中で、来年度、学用品費というか、学校以外のそういう準備に係るお金の検討委員会とか、それを海老名としてどう考えるかという会議を開くということで、先ほどの部活動の検討委員会と同じように皆さんに集まっていただいて、そのデータをその場でも全て公表して、では今後これをどのように扱うか。

現状で言うと、制服は最初の開校のときは学校がかなりかかわったりもするのですけれども、その後、制服を変えるときは保護者の方が中心になってやっているのですよ。保護者の方が自分たちで、制服はこれがいいと決めて、それに対して業者は値段を決めていくという方法なので、確実に保護者の方に入っていて意見を聞いて、保護者の意向を十分に反映したものにしなければいけないと私は思っていますので、次年度から学校以外の学用品費等の検討委員会を立ち上げて、それについてはまた検討しますので、そこでは資料は集まりますので、それを総合教育会議の場に出すことは可能だと思います。ただ、そういう検討にも入りますので、それだけをご承知ください。

○内野市長 制服はそうなのですよ。私も中学校のときにPTA会長を3年やったので、海西中学校でこういう議論がありました。20年前だと思うのですけれども、海西中学校は

詰め襟で統一かばんだったんですね。つり下げるかばんで、歩くのは大変だ、重たいという事で、そういった議論があった。それではどうしようかという議論をやって、検討委員会をつくって1年議論して、かばんはリュックサックで自由にしてしまいました。保護者は心配しました。だけど新しくしたときには、みんなそれぞれどこかへ行って買ってきたけれども、派手なリュックサックはなかったです。その次に、次の段階で制服の問題を議論するという事で、PTAで議論した。そのときに私は自由化だと言ったのです。制服は自由にしてしまえよう。自由にしてしまえば、かからないじゃないかと言ったら、保護者の7割方が制服、標準服をつくってくれと言いました。問題はそこです。お金がかかるものをつくれというのが保護者なのです。なぜかという、ふだん学校へ行くのにお金がかかる。ではジャージで行けばいいじゃないかと。今、地方へ行くと子どもがジャージで来ているところはいっぱいありますけれどもね。

そういった面でいろいろあるのですけれども、いろいろな考え方はあると思うので、これについては議論をしていきたいと思えますし、制服は制服としていろいろな議論がありますけれども、中学校の体育のジャージ、ジャージは先生が決めているんだよね。体育の先生が決めている。それを聞いたのだもの、ジャージをそろそろ変えようかと。これは保護者じゃない。制服は変えられなくても、体操着を変えるだけで大分違う。こういうことにメスを入れて、メスというか見直していこうよと。大体ジャージは体育の先生で決まるそうです。

そういうことでありますので、では次回、そういう形で保護者の負担軽減をもう少し中に入って話をするということによろしいでしょうか。

保護者の負担軽減で、それに対して何かありますか。これをゼロにしてとか、要望を余り言われても困るので。

○大谷中学校長 負担軽減につながる別の分野ですけれども、今回、学校管理下の保険の対応を拡充していただいて、学校としても大変安心しているところです。この保険ができる以前に、日本スポーツ振興センターという保険に公費で加入していて、保健体育とか部活動のけが等に関しては3割プラス1割いただける形で、それも1つは安全安心の材料だったのですが、そういう中で中3の進路に関して、入試当日とか出願とか合格発表に関しては、日本スポーツ振興センターは学校管理下とはしていなかったんですね。教員が引率しない限りは学校管理下ではないということで、私ども校長会として、29年度そこに予算をつけてほしいというのを8月につくって教育委員会に提出した段階で、それは問題であ

るということで、もう今の中3の子から適用できる保険を即断でつくっていただいて本当にありがたかったなと思ひまして、そういう保険に入っている他市もあるわけですが、公費でそれをやっていただいたのは海老名市だけであるということで本当にありがたいなと。なおかつ素早い対応で本当に感謝しているところです。ありがとうございました。

○内野市長 座間市長に、よくやるなと言われました。座間はやっていないので、あまりどんどんやらないでくれと言われました。できることは。わからない部分で、こっちの事務とかは市長部局の人間は現場のことを意外にわかりにくいのですね。そういったことを少しでも、ちょっとしたお金をかけることによってよくなるというものは学校現場だと思うので、どしどし校長会とかで要望というか、教育長と話し合っただけでやっていただきたいと思っています。

よろしいでしょうか。

○市民 体操服とかそっちの話に戻るのですけれども、小学校で使っている体操着というのはどこのお店でも買える紺のズボンと白のシャツになっているのですが、中学もそのままそれを使って、なるべくその中学校とわかるように、名前の部分に校章が入っているものを家で縫いつけるとか、そういうので使うということではできないのですか。そうすれば買いに行くお店も限られないで、どこかに行った先ですぐ買えるものになるし、買いに行くというのも、お店が指定されていると、そこに行くのも大変だ、時間がとれない人もいるかもしれないと思うのですが。

それを考えれば、制服にしても、例えば男子だったら黒の学ランというのは大体いろいろなところでそう特徴がないもので、そこにつけるボタンが中学校の校章が入っているものにするとか、そういうので大分負担は変わると思うのですが、具体的に考えれば、そういうのというのはありなのかなと。あと使い回しというのも、きれいに使った子の制服などというのは、また次の人に使ってもらう。制服が買えないとか、そういうようなご家庭があれば、そういうのは売るのではなくて、そういう使えるものを使っただけ。寄附。その人たちの負担はボタンを買いかえるとか、そういうのだけでいいという、もっとできることがあると思うのですが、どうでしょうか。

○伊藤教育長 ご意見としては伺います。今、現状の制度がありますので、その制度の中でどうなのか。例えば途中で転校している子どもたちが中学にいても、実を言うと校長室にもいっぱいストックがあつて、その子にはこれを使っただけとどんどんあげる。それから、どこの学校も今、制服リサイクルというのを始めていますので、それに対応して

います。

私も子どものころは詰め襟で、中学校はバッチが違うだけでボタンも一緒ですね。学というボタンで、ボタンすら変わらないようなことでずっと過ごしていましたので。ただ子どもたちは今、女子高生という言葉は変ですけれども、高校生だと制服に愛着がある子どもがいたり、自分の制服を持ちたいという子もいるだろうし、そういう面ではいろいろな子どもたちの考え方、また保護者の考え方を聞いて、それを検討する場を次年度立ち上げたい。

保護者の方々は本当にありがたいのですけれども、私が教員をやったときにも、学校で使うものだとすれば本当に無理してお金を出すのですよね。例えば今年第1学期、教材をこれだけ使ったので集金いたしますと、紙に何に使ったか、もちろん全部書いてあるのですけれども、でも学校で使うものだと思うと、私のクラスとほかのクラスを比べることもなく出してくださるのですよね。中には高いクラスがあるかもしれないし、そういうこともあって、私のそのころの意識としては、学校で使うものということで保護者にお手紙を出せば、保護者の方は払っていただける。そのときに自分で、では金額をどれだけ抑えるとか、幾ら以内にしようとかいうことに対してちょっと無神経なところが自分でもあったかなと思いますので、そういう意味で学校で使うもの、また先ほどの制服とか体操着はどうあるべきかということはまた、それを議論したくて次年度、検討委員会を立ち上げていきますので、どんどん意見をお寄せいただきたいと思います。

現状で今、制度であるもので例えば運動着については、前の学校のものも使えます。ただ保護者の方がそこで思うのは、制度の中でうちの子だけ違うものだと。全部が同じ制度ならいいのですが。そこを変えるにはちょっと時間がかかりますので、そんなに長くはかかりませんが、それだけのご承知ください。ご意見としては承ります。

○内野市長 本当がいい意見なのですよ。だから名札ではなくて縫い込んでやるとか、校章がなかったので昔はそうでしたから。そういった部分ではいろいろな考え方をとれるのですよ。中学生は1年から3年まで3000人いるのです。3000人が一括メーカー指定をしてメーカーと提携すれば、すごく安く入る可能性がある。アディダスだってナイキだって。ナイキのマークがあって、アディダスのマークがあって、その下に名前を縫い込めばいいような形でも安くなる。そういった部分ではいろいろな考え方ができるのですね。

ところが、今までの規定でいくと、制服は市内の業者何店舗かに指定されている。これも1つの問題なのです。それを、そこから取ってしまうと、その人たちの生活もありま

すから、今までの歴史的経過を踏んでしまっていますから、それをどうやってうまく徐々に変えていくかというのもこの課題なのです。そういった議論をしないと、一遍で全部を変えるというのは難しいので、徐々にこの1年間相談しながら、ここはこういうふうにしましょうということであれば徐々に変わっていくので、そこで保護者負担軽減がされるという効果があればいいのではないかと。事業効果は同じ。けども効果が負担軽減につながればいいなと思っていますので、そういった部分をこれから協議をしていきます。今の意見は本当にいい意見だと思うので、そういった部分があるということは踏まえてやっていきたいと思っています。よろしくお願いします。

それでは、よろしいでしょうか。

はい、どうぞ。時間がないので最後にさせていただきます。

○市民 上今泉に住んでおります。時間がない中で非常に重要な問題だろうと思いますが、ひとつよろしくお願いします。

最近マスコミを中心に、それから近々職員研修でも取り上げられておりますけれども、LGBT、非常に重要な問題点を含んでおると思っています。これは教職員のみならず、あるいは生徒、保護者、教育現場そっくり全部にかかわる重要な問題だと思うのですが、特に今後の触れ合いの問題、これが非常に難しい側面を持っていると思っております。そのLGBTを取り扱う今後の方向性を、アウトラインでもいいですから、ちょっとでも教えてください。

○伊藤教育長 その問題については我々のほうは、教職員は2年間ずっと人権の研修の中でLGBTのことを取り上げて、実際そういう方々に来ていただいて教員が話を聞いて研修を受けています。ただ、その後の指導の方針ということで、海老名市としてはそれは定めておりません。子どもたちに対して、我々はそこで人権教育として捉えていますので、どんな子どもたちに対してもそれぞれの個性を認められるという教育は常に学校の中でやっています。その中にそういう方々もいらっしゃる、それはそれでそれぞれの個性なのだという事は子どもたちに十分、これまでの道徳教育とか人権教育の中で進めております。その部分の性的マイノリティの方々については、教職員に対してはもう既に研修し、啓発をしておりますので、それを学校で今後実践してもらいたいと思っています。

○内野市長 それではここで終わりにしますけれども——どうぞ。最後なので、ではお一方。保護者の方ですよ。

○市民 すみません、最後の貴重な時間を。杉久保小学校の保護者なのですけれども、数

年後に大谷中にお世話になると思いますけれども、スマホを持たせたほうがいいのか教えていただきたいのです。今、中学校に通っている先輩ママさんたちからお聞きすると、教室の連絡事項、部活の連絡事項は全てLINEだと聞いたので、今現在はスマホを持たせていないのですけれども、中学校に入ったらスマホを個人的に持たせるべきなのでしょうか。それと、もしスマホを持たせなければいけないというのであれば、例えば夜7時以降は使ってはいけないとか、時間制限を学校のほうで決めていただけると、家庭でも指導しやすいのですけれども、すみません、よろしくお願いします。

○大谷中学校長 学校の連絡事項が全てLINEだというのは誤解だと思います。お子さんがなかなか中学生の時代は難しいので、きちんと保護者のほうに学校からの連絡がお伝えいただけなかったりとか、あるいは通知が渡らなかったりなどということで、学校の予定を保護者さんは実は知らなかったみたいなケースもあり、そういった背景の中で、こんなふうになっているよねというふうに自主的に補完するようなツールとしてLINEをお使いになるようなケースはあると思うのですけれども、学校から生徒や保護者への連絡に関しては、紙の通知、あるいは口頭で職員が学活でもって生徒に伝えるというのが本筋で、それ以外の正式なものはありません。

今、学校メールという形で多くの方もご参加いただいて、緊急の臨時休校ですよとか、インフルの拡散防止のために3校時やってお昼を食べさせて帰しますよといった、急遽の変更事項は学校メールで流しますけれども、そういったようなケース以外の部分、全員が学校メールに入っているわけではありませんので、電話連絡網が主たる第一義的な連絡の手段になっています。

併せて言いますと、学校の中でいろいろな生活上の問題が起きますけれども、最近多いのはスマホ絡みが大半です。今年度も8割ぐらいの指導事項はスマホ、携帯等でした。なおかつ画像をあまり個人情報とかの知識のないまま安易に誰もが見えるように立ち上げてしまったりみたいな、そういうところで全員を学校に呼んで消させてみたいな、そういう指導まで必要な場面もありましたので、逆に言うと、持たせる場面では家庭の中での約束事も必要でしょうし、年に1回、携帯電話教室ということで、今年度に関しては警察に来ていただいて、便利な反面、こんな恐ろしさがあるというところは十分お伝えしているところではございます。よろしいでしょうか。

○内野市長 時間がないので、申しわけありませんけれども、締めてよろしいですか。スマホの関係ですか。

○市民 スマホが先ほどの教育関係にも関係してくるのかなと思ったので、先ほど意見を申し上げようと思ったのですが。スマホに関しては実態調査もこちらのほうに載っていますし、4時間近く、家へ帰ってやっているという子もたくさんいるという実態がわかると思うのですけれども、部活動とか学校ではそれこそ充実した日々を過ごしている子たちなのですけれども、いざ家に帰ってからはスマホでもって遊んでいる。そこで通信しながらお友だちと会話しているという実態がありまして、そこにもお金がかかりますし、新しい機種は10万ぐらいするのですよね。その上、時間制限を親と約束してもなかなか守らないというところがあるので、学校と本当はそういうところを連携しながら、学習時間にも移行させていきたいという親の願いもあるのですけれども、その点について本当は一緒に考えていきたいと思っていたのですが。スマホはみんな子どもが大体持っているので、部活の連絡などもLINEで来ることが多いですね。前日に練習試合とか現地の集合場所とかが決まったりするときもあるので、早いツールとしてはLINEを利用されている部活とかも多いのではないのかなと思います。

○内野市長 スマホの問題は、教育委員会も時間を使っているというのはわかるのですね。連絡ツールとしては最高で、それから今、スマホを持っていない子どものほうが少ないので、今後規制というか抑制するかという問題は教育委員会も悩んでいると思うのですよ。学校では持ち込みはだめだと決めています。綾瀬ではスマホを何時間にしようということで、市教と保護者が一緒になって決めたということはこの間報道されましたけれども、今後の生活の中のスマホという問題については、この教育委員会の皆さんと保護者で議論は必要だと私も認識しています。しっかりとやっていきたいと思いますので、よろしくお願ひしたい。

協議事項の2については、以上といたします。

○内野市長 次に、協議事項(3)その他(大谷中学校区での身近な話題などについて)を議題といたします。

それでは大谷学区の中で何か特別に先生方はありますか。

なければ締めてしまいますけれども、よろしいですか。

ないようですので、協議事項の3については、以上といたします。

○教育部長 ありがとうございます。長時間にわたり大変お疲れさまでした。

それでは事務連絡でございます。今年度の総合教育会議は、先ほど事務局からもお話しさせていただきましたが、今回で最終でございます。来年度につきましては、現在、日程等を調整中でございます。テーマにつきましては保護者の負担軽減ということも盛り込みながら進めてまいりたいと思っておりますので、また日程等が決まり次第、ホームページ等でお知らせいたします。ご参加をお待ちしております。

それでは、以上をもちまして第6回海老名市総合教育会議を閉会といたします。お疲れさまでした。